



リポジトリのグッドプラクティスのための COAR コミュニティ フレームワーク

第 2 版 – 2022 年 7 月 19 日

Translation of: Confederation of Open Access Repositories. (2022, July 19). COAR
Community Framework for Good Practices in Repositories. (Version 2).
<https://www.coar-repositories.org/files/COAR-best-practices-framework-for-repositories-Version-2-July-19-2022.pdf>

翻訳者

南山泰之 (MINAMIYAMA Yasuyuki), JPCOAR, 国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター
河合将志 (KAWAI Masashi), JPCOAR, 国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター
林 正治 (HAYASHI Masaharu), JPCOAR, 国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター



<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/>

この翻訳は、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

COAR による翻訳の確認は行われていません。翻訳に疑義がある場合は原文を参照してください。

目的

本フレームワークの目的は、適用可能、かつ達成可能なグッドプラクティスに基づいて、リポジトリの現在の運用を評価し、改善を支援することである。

現在、リポジトリ運営における特定の側面（発見、アクセス、再利用、完全性、品質保証、保存、プライバシー、持続可能性など）を評価するために開発された既存のフレームワークや評価基準が多数存在する。しかし、これらの基準は異なる組織に散在しており、一つの地域や一つのタイプのリポジトリにしか当てはまらないことが多い。

COAR コミュニティフレームワークは、様々なタイプのリポジトリ（出版、機関、データなど）、及び様々な**地理的・テーマ的文脈に適用できる**、グローバルで多次元的なグッドプラクティスのフレームワークを提供する。

プロセス

本フレームワークは、多くの異なる地域や様々な種類のリポジトリを代表するコミュニティの重要なインプットをもとに、COAR リポジトリ評価作業部会によって開発された。

本書は、COAR コミュニティフレームワークの第2版である。この版は、作業部会による第1版のレビュー後、コミュニティのコンサルテーションを経て発行された。

本フレームワークの第1版は、他のソースから既存の基準を集め、実現可能性、実施の容易さ、ギャップの観点からCOAR リポジトリ評価作業部会によるレビューが実施された。

他のフレームワークとの関係

この作業では、次のようなフレームワークを考慮した：[Data Citation Roadmap for scholarly data repositories](#), [Core Trust Seal](#), [FAIR data principles](#), [PLOS “Criteria that Matter”](#), [TRUST Principles for Digital Repositories](#), [COAR Next Generation Repositories Technologies](#), [Plan S](#)

定義

コンテンツリソース：リポジトリに寄託/アップロードされた対象またはアイテムを指す（例：原稿、データセット、ビデオ）。

メタデータレコード：与えられたリソースのメタデータ要素のコレクションを指す。

ランディングページ：リポジトリ内の特定のコンテンツリソースを表すリポジトリページを指す。

目的	必須の特性	望ましい特性
<p>1. 発見可能性</p>	<p>1.1 リポジトリは、基本的な Dublin Core メタデータだけでなく、ユーザーによるより細かい要素（例えば、多言語、FAIR 準拠、分野ベース、および地域のメタデータスキーマのサポート）の適用を可能にする</p> <p>1.2 リポジトリは、OAI-PMH を用いたメタデータのハーベスティングをサポートする</p> <p>1.3 リソースが取り下げられた場合、リポジトリは墓標となるページを提供し、メタデータレコードの公開を維持する</p> <p>1.4 リポジトリは、リソースのランディングページを示す永続的な識別子 (PID) を割り当てる</p> <p>1.5 リポジトリは、検索機能を提供する</p> <p>1.6 リポジトリ内のメタデータは、外部の学術ディスカバリーサービスやアグリゲータによってインデックスされている</p> <p>1.7 リポジトリは、1つ以上の分野別または一般的なリポジトリのレジストリに含まれている</p> <p>1.8 リポジトリのメタデータは、人間が読める形式及び機械可読形式で利用できる</p>	<p>1.9 リポジトリは、プレプリント、出版された論文、データ、ソフトウェアなどの関連コンテンツ間におけるメタデータレコードのリンクを容易にする（例えば、他の場所にある関連リソースの PID を含む）</p> <p>1.10 リポジトリは、著者、資金提供者、機関、資金提供プログラム及び助成金、その他の関連団体に付与された PID をサポートする</p> <p>1.11 リポジトリ内のメタデータは、クリエイティブ・コモンズ・パブリック・ドメイン提供 (CC0) の下で利用できる</p> <p>1.12 研究データの場合、リポジトリは必要に応じて複数の粒度のデータに対する識別子をサポートする（例：全データセットのサブセットを使用した研究があり、そのサブセットの引用が必要な場合）</p> <p>1.13 リポジトリは、メタデータレコードにおける統制語彙の使用を促進する</p> <p>1.14 リポジトリ内のメタデータは、標準的な書誌フォーマットで、ユーザーが無料でダウンロードできる</p>
<p>2. アクセス</p>	<p>2.1 リポジトリ内のリソースは、ユーザーが無償で利用できる</p> <p>2.2 リポジトリ内の各リソースのランディングページには、リソースへのリンクが含まれている</p> <p>2.3 リポジトリは、障害者のために、文書やメタデータへのアクセスをサポートする</p>	<p>2.5 リポジトリは、レスポンスでモバイルフレンドリーなユーザーインターフェースをサポートする</p> <p>2.6 リポジトリは、非常に大きなファイルを扱うためのメカニズムを、通常のユーザーインターフェース以外にも提供する（ファイルのサイズがユーザーにとって扱いにくい場合）</p>

	<p>2.4 リポジトリがセンシティブデータを収集している場合には、データ所有者が許可されたユーザーのみにアクセスを制限できる仕組みを提供する</p>	<p>2.7 あるリソースへのアクセスが制限されている場合、リポジトリはそのリソースへの間接的なアクセスを手助けする（例：著者に連絡する手段を提供するなど）</p> <p>2.8 リポジトリがセンシティブデータを収集している場合、リポジトリはデータ共有を可能にするための匿名化ツールを推奨する</p> <p>2.9 リポジトリは、W3C Web Content Accessibility Guidelines の最新版を遵守する</p>
3. 再利用	<p>3.1 リポジトリは、リソースの再利用条件を規定するライセンス情報をメタデータレコードに含む</p>	<p>3.2 リポジトリのランディングページは、リソースの引用に必要なメタデータを含み、かつ機械可読形式である</p> <p>3.3 リポジトリは、リソースへの機械的なアクセスをサポートするための Signposting を採用する</p> <p>3.4 リソースは、機械可読かつ非プロプライエタリなフォーマットで保存される</p> <p>3.5 リソースをプロプライエタリまたは機械可読でない形式で受け取った場合、リポジトリはオープンかつ標準に準拠した機械可読形式のバージョンを作成するよう試みる</p> <p>3.6 リポジトリは、標準的な再利用ライセンスを持たないリソースについて、寄託時に合意された再利用条項を含む利用規約を提供する</p>
4. 完全性と真正性	<p>4.1 リポジトリは、リソースの不正な操作を防止するためのセキュリティ対策を適用する</p> <p>4.2 リポジトリは、寄託者または管理者によるメタデータの改訂とリソースのバージョン管理をサポートする</p> <p>4.3 リポジトリは、不正な変更または偶発的な損傷を検出するために、定期的にリソースの整合性チェックを実行する</p>	

<p>5. 品質保証</p>	<p>5.1 リポジトリは、リソースの提出時に基本的なメタデータの軽量なレビュー（必要に応じて情報の追加）を行う</p> <p>5.2 リポジトリは、どのようなキュレーションプロセスがリソースとメタデータに適用されているかを概説した文書またはポリシーを提供する</p>	
<p>6. 保存</p>	<p>6.1 リポジトリは、リソースの管理期間、役割、異なるリソース形式の保存のための手順を明記したデジタル保存計画を持つ</p> <p>6.2 リソースが提出された際、または修正された際に、リポジトリはチェックサムを記録する</p> <p>6.3 リポジトリは、来歴、アップロード日、ファイル形式を含む基本的な保存メタデータを収集する</p> <p>6.4 寄託者とリポジトリ間の合意文書は、保存責任を果たすために必要なすべての行為、例えばアイテムの複製、変換、保存に関する権利などを規定する</p> <p>6.5 リポジトリ内のメタデータとリソースは、他のシステムにコピーまたは移行することができる</p> <p>6.6 リポジトリのコンテンツの少なくとも1つのコピーは、元のリポジトリとは異なる場所に保存されている</p> <p>6.7 リポジトリは、自然災害やサイバー攻撃時の対応と手順を詳述した事業継続計画を持つ</p>	<p>6.8 リポジトリは、適切なメタデータスキーマ（例：PREMIS）に準拠した保存メタデータを収集する</p>
<p>7. 持続可能性とガバナンス</p>	<p>7.1 リポジトリは、リポジトリの管理責任を持つ組織と、組織のガバナンスの性質を明確に示す</p>	

	<p>7.2 リポジトリは、ユーザーを支援するための窓口と、サービス管理の責任を負う少なくとも1人のスタッフを持つ</p> <p>7.3 リポジトリは、合理的な期間内で問い合わせに応答する</p> <p>7.4 リポジトリは、運用が停止した場合にリソースがどうなるかを示す公開されたポリシーを持つ</p> <p>7.5 リポジトリ（またはリポジトリを管理する組織）は、リポジトリの管理と資金調達のための長期的な計画を持つ</p>	
<p>8. その他の特性</p>	<p>8.1 リポジトリは、受け入れが可能なコンテンツの範囲を概説した公開文書を提供する</p>	<p>8.2 リポジトリは、SWORD などの標準プロトコルを用いた投稿をサポートする</p> <p>8.3 リポジトリの投稿システムは、個別のアップロードと一括アップロードの両方をサポートする</p> <p>8.4 リポジトリは、標準的な利用統計（例：閲覧数、ダウンロード数）を収集し、共有する</p> <p>8.5 リポジトリは、十分にサポートされたオープンソースソフトウェアで構築されている</p>